



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2022/7/17 Rd-6 富士スピードウェイ

天候：曇り/晴れ 気温：29℃ 出走台数：21台

観客数：16日(土)8,200人 17日(日)13,900人 合計22,100人

昨日予選の大雨から一転、午前中に小雨は残ったものの、グリッドでスタートを迎えるころには気温29度、路面温度40度と、夏が帰ってきたような陽気となった。

フォーメーションラップでスピン車両が発生したため、エクストラフォーメーションラップが行われ、レースは1周減算の40周で争われることに。迎えたスタート、牧野選手は絶妙なライン取りで2台をパスし4番手へ浮上。一方の天津選手はアウト側に寄せすぎたか1台に先行を許し6番手となる。その後方ではスタートの混乱で多重クラッシュが発生。さらに3周目にはマシンが大破するアクシデントが発生したため、セーフティーカー（以下SC）が導入された。10周目にリスタートが切られ、ピットストップウィンドウが開くと、チームは天津選手をピットに呼び素晴らしいピットワークで送り出す。牧野選手は12周目にピットイン。早めにピットインした数台のオーバーカットを成功させ、タイヤ交換グループの2番手でコースに戻り、ステイアウトグループとのタイム差を削る渾身の走り続ける。天津選手はタイヤのグリップ不足に悩まされ、タイムを上げられない状態が続いていた。26周目のアクシデントにより2度目のSCが導入されたタイミングで、ステイアウトグループはピットイン。ところが、牧野選手の前を行く坪井選手が減速してコースを周回したため、このタイミングでピットインした笹原選手と宮田選手に先行されてしまう。ここからの10周、牧野選手は何とか上位を狙うが届かず5位。天津選手も苦しい中完走を果たし15位でレースを終えた。

5：牧野任祐選手 5位 (HONDA 勢3位)

今日のレース自体は、2度目のSC導入中の運が悪いというか、悪い方向に転がってしまい表彰台には届きませんでした。今シーズンコンスタントにポイントもとることができていて、このレースでもスタートもよく、ラップペースも速くて表彰台争いが出来き、自分自身もチームも着実に進歩はしているものの、もう一步前進がないと優勝には届かないですね。残り2大会4戦に向け、前進を続けます。

6：天津弘樹選手 15位 (HONDA 勢8位)

スタートでポジションを落とし、早めのピットインでアンダーカットを狙いましたが、その後のペース上がらず悔しいレースになってしまいました。路面温度の上昇にマシンを合わせきれなかったのか、ライバルに比べてタイムの落ち幅が大きく、防戦一方の苦しい展開でした。予選の速さについてはついてきているのですが、好位置からのスタートを生かせないレースが続いていて、決勝における自分自身と車の状態の改善が課題ですね。後半に向けて仕切りなおす気持ちで、集中して準備します。